

平成 21 年度緑地管理研究会の開催について

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成21年度緑地管理関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会の開催に先立ち、平成22年1月21日(木)にホテルラングウッドにて平成21年度緑地管理研究会が開催されました。

当協会では、水田畦畔、農道等の農耕地周辺や、道路法面、鉄道沿線などの場所を対象に、それぞれの管理目的に応じ、植生を根絶することなく雑草の伸長を長期間抑制する薬剤の開発、利用を図る目的で、平成4年度より抑草剤の試験研究に取り組んでおりますが、平成19年度からは、緑地管理分野における抑草剤を主体とした薬剤の効率的な利用を目的として、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー各社による現地実証試験が実施され、毎年研究会を開催しております。

今回の研究会には、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー関係者20名、試験場関係者16名、農薬会社等関係者81名ほか、計148名の参加が得られました。

以下に研究会の内容を簡単に紹介します。

・講演「緑地場面で使われるグラウンドカバープランツの特性と現場での利用状況」ー近畿中国四国農業研究センターカバークロップ研究近中四サブチーム長 大谷一郎：

グラウンドカバープランツの特性、代表的な草種、水田畦畔・公園等における植栽例につ

いて講演された。

・現地実証試験結果報告 ー中部電力、中日本高速道路グループ、ネクスコ東日本エンジニアリング、植調研究所：

中部電力からは、変電所内における草種、管理場面に応じた薬剤による管理の試験結果が報告された。

中日本高速道路グループからは、草刈り回数軽減を目的とした薬剤による高速道路路肩部植生の管理について試験結果が報告された。

ネクスコ東日本エンジニアリングからは、高速道路の管理で問題となる雑灌木の防除試験の中間結果が報告された。

植調研究所からは、鉄道法面における薬剤による雑草管理、ササ優占法面の管理方法についての試験結果および低コスト・省力型シバ植生誘導技術の検討結果が報告された。



写真 緑地管理研究会の様子